

# Road to 2030

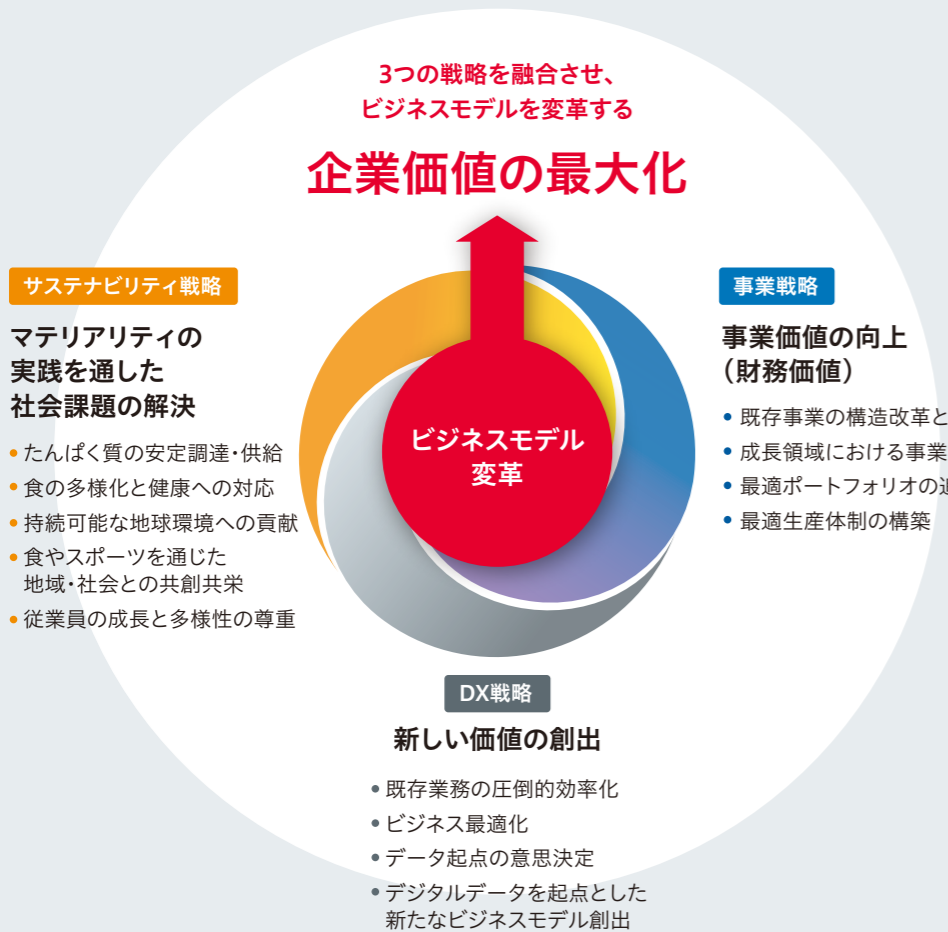
# Road to 2030

「Vision2030」“たんぱく質を、もっと自由に。”では、事業活動を通じて社会課題を解決することで、企業価値の最大化を目指しています。事業戦略とマテリアリティを一体化させて推進し、サステナブルな社会の実現と、ニッポンハムグループの成長・発展に挑戦していきます。

「Vision2030」からバックキャストして策定した「中期経営計画2023・2026」では、「既存事業の構造改革と強化」「成長領域における事業育成」「最適ポートフォリオの追求」「最適生産体制の構築」を進め、ROICの向上を図ります。

あわせて、マテリアリティの実践を通じて社会課題の解決とグループの成長・発展に取り組むことで、ROICスプレッドを拡大していきます。

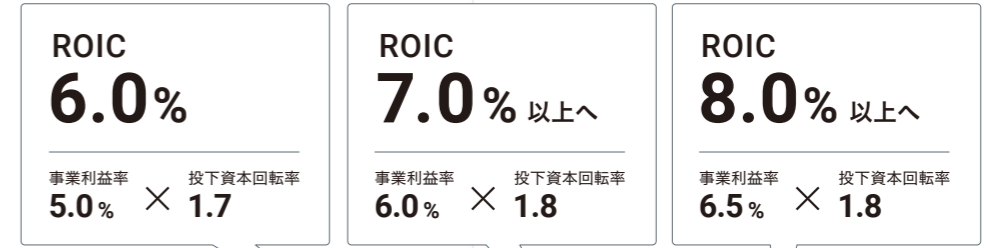
中期経営計画2023・2026 グランドデザイン



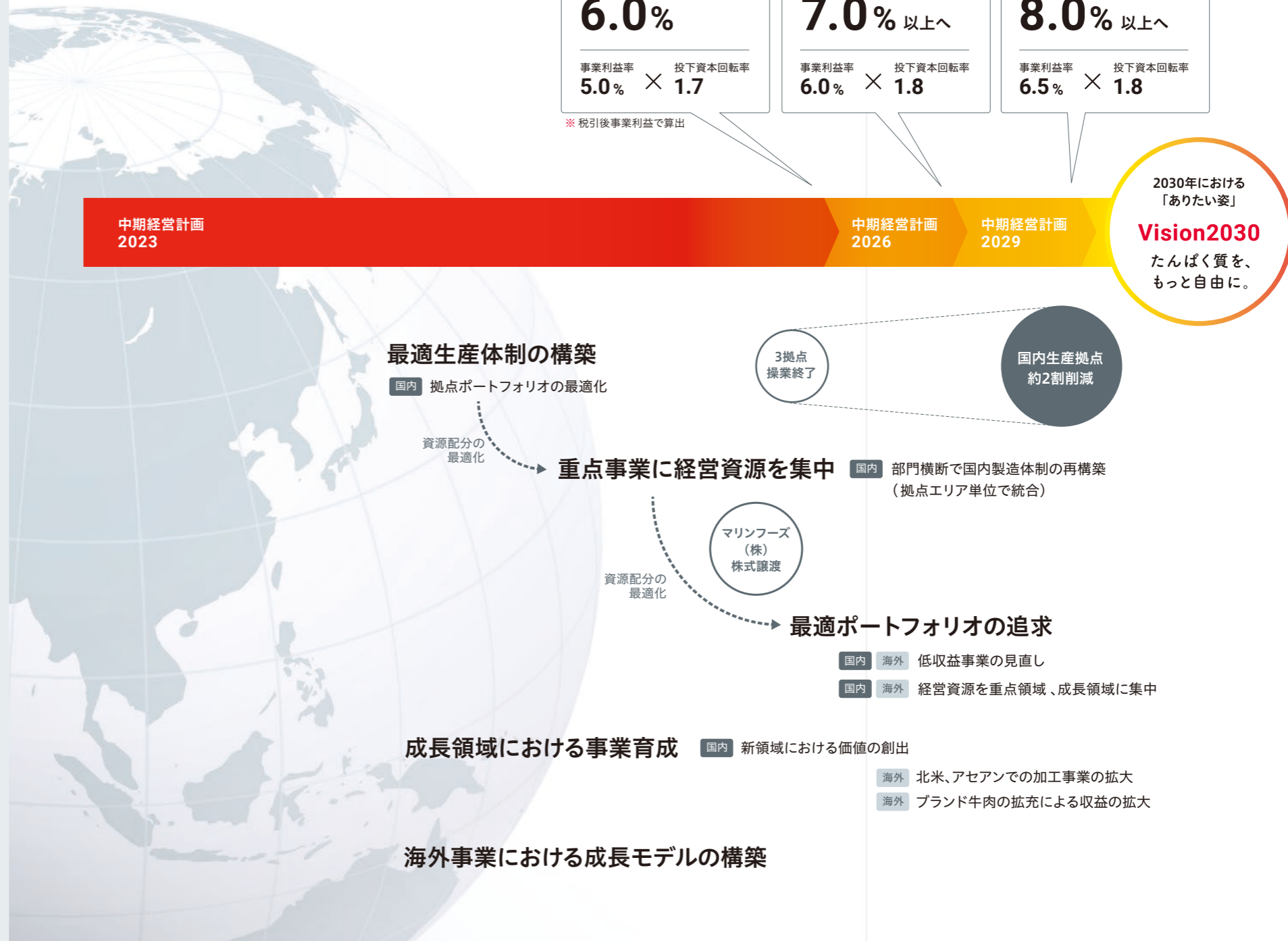
## 事業価値の向上

## 最適生産体制の構築と最適ポートフォリオの追求

目指すべき財務目標 (ROIC)



2030年における「ありたい姿」  
**Vision2030**  
たんぱく質を、もっと自由に。

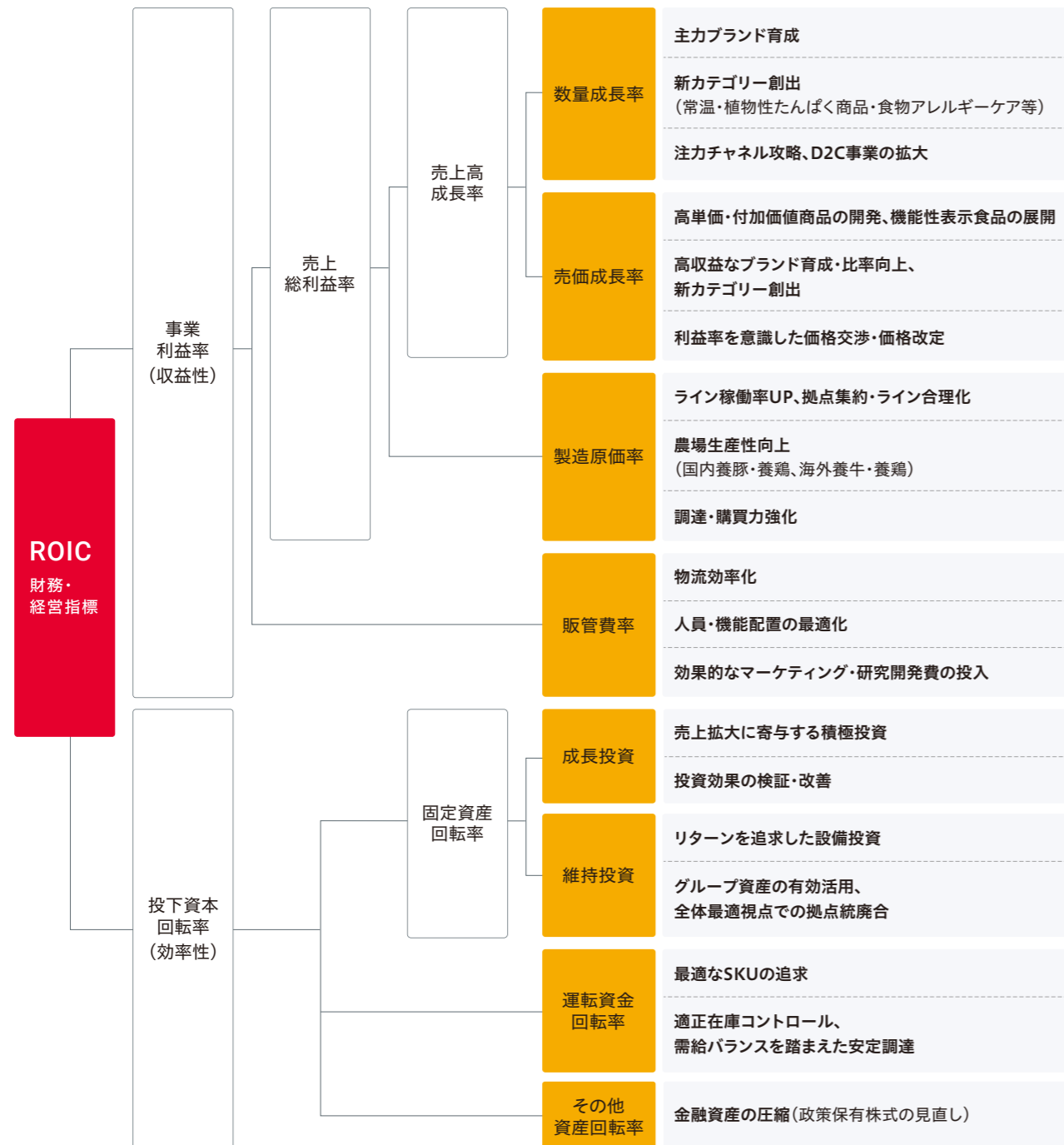


事業価値の向上

# ROIC経営の施策

ROICツリーの流れ

2022年3月期の施策



リスクと機会

# 取り巻くおもな事業遂行上のリスクと機会

リスクと背景

消費者動向	日本の少子高齢化による食需要の変化	2030年の日本の人口 対2019年比 <sup>※1</sup> -5.3% (1億1,912万人)
価格動向	世界人口の増加による食糧需給バランスの変化	2030年の世界人口 対2019年比 <sup>※2</sup> +10.4% (85億人)
	貿易協定の発効などによる他社との競争激化	2030年の世界の動物性たんぱく質需要 対2000年比 <sup>※3</sup> 1.5倍
環境関連	畜産物の相場、飼料価格および原油価格の変動に起因する販売価格および調達価格への影響 家畜の疾病の発生やセーフガードの発動	
	気候変動、水リスクなどによる環境問題のリスク	温室効果ガス総排出に占める畜産由来の割合 <sup>※4</sup> 14.5% 米国主催気候サミット 温室効果ガス 46%削減 (2013年度比)
品質関連	食の安全性のリスク	2050年の世界の水需要 対2000年比 <sup>※5</sup> 55%増 異物混入や不適切な表示に起因する商品の品質や安全性の毀損による回収費用や損害賠償および事業活動の制約

機会と背景

消費者動向	ライフスタイルの多様化による食ニーズの多様化	健康志向の高まり、簡便・時短ニーズの増加、ヴィーガンなどの新しい価値観の浸透、食を通じた体験の重視
生産・飼育関連	国内畜産農家数の減少 <sup>※6</sup>	肉用牛 対2020年比 -4.1% (42,100戸) 豚 対2020年比 -10.9% (3,850戸) ブロイラー 対2020年比 -4.0% (2,160戸)
従業員関連	働き方を見直す機運の高まり	2018年働き方改革関連法案成立

※1 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口・出生中位 (平成29年推計)」  
 ※2 国際連合「世界人口推計2019年版」  
 ※3 PBL Planbureau voor de Leefomgeving 「The Protein Puzzle」  
 ※4 Food and Agriculture Organization of the United Nations 「TACKLING CLIMATE CHANGE THROUGH LIVESTOCK (2005年推計)」  
 ※5 OECD統計 「OECD Environmental Outlook to 2050」  
 ※6 農林水産省「畜産統計 (令和3年2月1日現在)」

社会価値の向上

マテリアリティの進捗



マテリアリティ	考え方/社会課題	中間目標	2021年 →	2022年 →	中期経営計画 2026	中期経営計画 2029
<p>たんぱく質の安定調達・供給</p>	<p>世界的な人口増や気候変動などに伴い、たんぱく質の供給難が予測されています。ニッポンハムグループはたんぱく質の安定調達と供給を目指します。これまでの品質に対する安全・安心への取り組みに加え、サプライチェーンにおける環境や人権・動物福祉などの社会的側面を配慮しつつ、多様なたんぱく質への取り組みを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>たんぱく質の安定調達・供給</li> <li>たんぱく質の選択肢の拡大</li> <li>食の安全・安心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニマルウェルフェアポリシー、ガイドライン策定</li> <li>CSR 調達：サプライヤー向けアンケート実施</li> <li>スマート養豚</li> <li>植物性たんぱく商品の開発 (NatuMeat)</li> <li>新たなたんぱく質の研究 (培養肉、代替肉)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全処理場内の係留所へ飲水設備の設置 (牛・豚)</li> <li>全農場・処理場への環境品質カメラの設置</li> <li>サプライヤー向けアンケート実施：人権デュー・デリジェンス、サプライヤーとのエンゲージメント</li> <li>PIG LABO (スマート養豚) 実装化</li> <li>植物性たんぱく商品の拡充拡販 (出荷金額 100 億円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全農場の妊娠ストール廃止 (豚)</li> <li>重要な1次・2次サプライヤーへの方針周知</li> <li>SAQ 実施</li> <li>植物性たんぱく商品の開発</li> </ul>		
<p>食の多様化と健康への対応</p>	<p>ライフスタイルなどの変化に伴い、食においても多様な対応が求められています。さまざまなニーズにあわせた商品の開発とサービスの提供により、楽しく健やかな暮らしに貢献します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギー対応</li> <li>健康増進</li> <li>食の多様化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京栄養サミット 2021 におけるコミットメント</li> <li>機能性表示食品の開発</li> <li>食物アレルギーケアのプラットフォーム立ち上げ</li> <li>食物アレルギー関連商品の通販サイト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギーケアプラットフォームの展開、啓蒙活動の実施</li> <li>食物アレルギー予防研究</li> <li>高齢者ケア事業やファミリーフード(ペットフード)事業の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギー関連商品の拡充および啓発 (出荷金額 40 億円)</li> <li>認知機能改善商品 (年間 300 万食)</li> </ul>		
<p>持続可能な地球環境への貢献</p>	<p>気候変動や食品ロス、海洋プラスチックなど地球環境を取り巻くさまざまな課題があります。ニッポンハムグループの事業は自然からの恵みをいただくことで成り立っており、バリューチェーンを通じて温室効果ガスや食品ロス、プラスチックなどの課題解決に向けての取り組みを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動への対応</li> <li>省資源・資源循環</li> <li>生物多様性への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期環境目標の策定</li> <li>TCFDシナリオ分析</li> <li>CO<sub>2</sub>削減目標設定 (国内)</li> <li>包装資材の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルに向けた取り組み検討</li> <li>家畜由来 GHG 排出量削減および回収に向けた研究 (他者共同)</li> <li>フレームワークに基づく TCFD の情報開示</li> <li>再生可能エネルギー活用の模索：廃油ボイラー、太陽光発電、燃料転換</li> <li>「石窯工房®」の資材変更 (紙トレー)</li> <li>「桜姫®」産地パックのパッケージに植物由来のバイオマスを使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の化石燃料由来の CO<sub>2</sub> 排出量 46% 以上削減 (2013 年度比：国内)※</li> <li>海外の化石燃料由来の CO<sub>2</sub> 排出量 24% 以上削減 (2021 年度比)※</li> <li>国内の廃棄物排出量 5% 削減 (2019 年度比：製造数量当たりの原単位)※</li> <li>国内の廃棄物排出量リサイクル率 92% 以上※</li> <li>国内の水使用量 5% 削減 (2019 年度比：製造数量当たりの原単位)※</li> <li>海外の水使用量 5% 削減 (2021 年度比)※</li> <li>RSPO 認証パーム油使用率 100% (ブック アンド クリーム含む)※</li> </ul> <p>※ 目標は 2030 年度とする</p>		
<p>食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄</p>	<p>ニッポンハムグループは「良き企業市民」として食やスポーツを通じたつながりを深め、ともに歩み・発展することで愛され信頼される企業を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道産原料を使用した北海道ブランドの構築</li> <li>スポーツを通じた地域貢献 (成績運動型社会貢献活動等)</li> <li>食育活動、手作り体験教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道プロジェクト推進室立ち上げ</li> <li>北海道マラソンに参画</li> <li>さっぽろオータムフェスト 2022 に参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「北海道ボールパーク F ビレッジ」の開業</li> </ul>	<p>グループの重要生産販売拠点・北海道日本ハムファイターズのブランドを基点とした北海道との地域共生活動を推進</p>	
<p>従業員の成長と多様性の尊重</p>	<p>ニッポンハムグループでは「従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場」となることを目指しています。一人ひとりを尊重し、それぞれが持てる力を発揮・活躍できる環境づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の働き甲斐の向上</li> <li>多様性の尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点項目の KPI 設定と運用開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員が生き生きと活躍し能力を伸ばすための仕組みづくり (仕事に対するやりがい向上/適正な評価処遇/客観的な昇格プロセス)</li> <li>多様性を尊重し能力が発揮できる環境と仕組みづくり (女性活躍推進/障がい者雇用推進/総労働時間の削減/健康経営の推進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍推進 (女性管理職比率 20% 以上)</li> <li>障がい者雇用推進 (障がい者雇用率 2.3% 以上)</li> <li>総労働時間の削減 (総労働時間目標 1,870 時間、時間外労働時間目標 200 時間)</li> <li>こころから健康 (健康診断再検査実施率 100%、喫煙率 12%、ストレスチェック受検率 100%)</li> </ul>		

新しい価値の創出

# IT・DXの取り組み

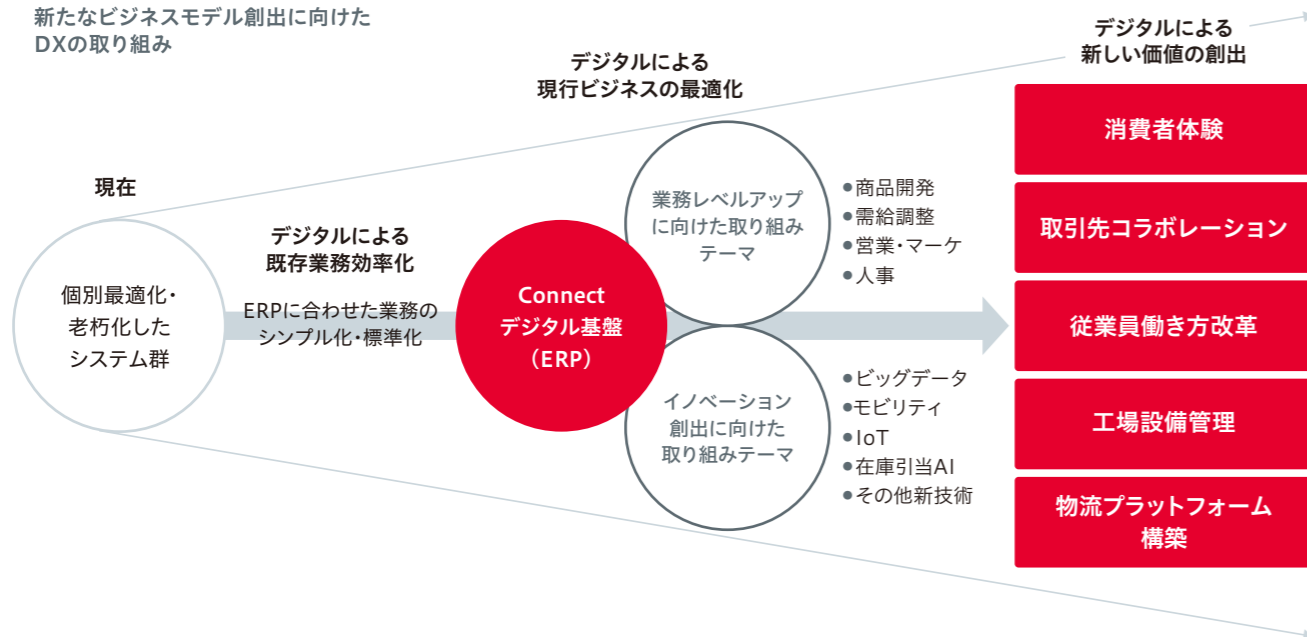
ニッポンハムグループは、デジタル技術を活用し、これまでのビジネスプロセス・ビジネスモデルを抜本的に変革します。そのための土台づくりとして、2020年をDX(デジタルトランスフォーメーション)元年とし、基幹システム改革プロジェクト「Connect」を推進。各事業において個別最適に組み込まれたシステムや業務を統一し、全社最適の視点から、外部環境の変化に柔軟に対応でき、既存業務の圧倒的効率化を可能にするデジタル基盤を実現します。

このデジタル基盤の構築と並行して「生産性向上を実現するDX」を進めます。多品種を取り扱うサプライチェーン業務はコストの肥大化や複雑化につながります。そのため、AIを活用した需要予測や販売計画の自動策定などをスタートさせ、業務コストの最適化を図るとともに、スムーズな部門間連携を実現させることで新たなビジネスプロセスを構築します。また、ニッポンハムグループならではの取り組みとして、畜産農家を支援する「スマート養豚」も推進します。さらに、販売や物流などで「事業収益を高めるDX」を進め、現行のビジネスモデルからの脱却と新たな顧客基盤の獲得にも挑戦します。

これらの取り組みを推進するために、選抜型DX研修や自主参加型のITリテラシー研修等、人材育成にも注力していきます。



新たなビジネスモデル創出に向けたDXの取り組み



IT人材能力定義

